

第Ⅳ期群馬県教育振興基本計画

- 視点1 生涯にわたり一人一人が持つ個性や能力を伸ばし、可能性を育むために、自ら学び、自ら考える力を育成する。
- 視点2 誰もが互いに多様性を認め合い、共に支え合う社会をつくる。

方針2 「豊かな心」

体験的な活動を重視して「美しいものや崇高なものに対する感動や思いやりのよさ」「人のために役立つ喜び」を味わえる教育活動を展開し、心の教育の充実を図る。

- 体験的な活動の価値を高めます。
委員会活動 集会活動 たてわり活動
教科・総合の体験活動改善 資源発掘 事前事後指導
- 交流を推進します。(生き方教育)
異学年 お年寄り 園小中連携 公民館・出前授業活用
- 生きものや自然にふれる活動を推進します。
教材化…草花 うさぎ メダカ 昆虫 その他

方針4 「家庭・地域連携」

学校運営協議会制度を活用して、保護者や地域との交流を推進し、良好な関係を築く。(CS3年目)

- 学級・学年経営を充実させます。
学級経営方針の共通理解 保護者参加型活動推進
- 情報を発信し、学校評価を生かします。
教育の趣旨伝達 指導法の研究 評価に基づく改善
- 学校を取り巻く問題の解決に努めます。
問題意識の高揚 学校運営協議会での方策検討・実行
- ボランティア組織を充実させます。
既存の組織活用 ニーズ把握とボランティア募集
- 地域の教育力向上に貢献します。
公民館と連携 行事へ参加促進 コミュニティ形成に寄与

方針6 「職場環境」

教職員一人一人が自らの持ち味を存分に発揮できる健全な環境をつくり、質の高い教育を行う基盤をつくる。

- よりよい雰囲気をつくります。
感謝の伝え合い サポート 謙虚に 報告相談と確認
- 互いに手伝い、チームで仕事をします。
周りを見て チームで機動的に 役割分担
- 成果と責任を共有します。
部会活用 企画練り合い 失敗の原因究明 リトライ
- 「提言R6」に基づいた働き方改革を進めます。
改善意識 ICTで効率化・省力化 精選 自己管理

令和6年度 館林市立第一小学校 学校経営の計画

方針1 「確かな学力」

児童主体の「見つけた」「わかった」「できた」という喜びが味わえる授業を展開し、児童一人一人が粘り強く、確かな学力を身に付けることができるようにする。

- チームで教材研究の楽しさを味わい、授業を改善します。
人材活用 はばプall活用 探求的・横断的学び 指導と評価の一体化 ノート指導
※授業づくりのポイント ICT活用場面の明確化
導入の工夫 ねらいの明確化と明示 個別最適な学びと協働的な学びのバランス
振り返り時間の充実 ユニバーサルデザインの視点
- 校内研修を推進します。
共通認識の醸成 ICT効果的活用 言語能力育成 参加型資質向上・MnA研修の充実
- 情報活用能力を育てます。
タブレットPC日常的活用 情報モラル教育の継続・充実 プログラミング体験
- 家庭学習を充実させます(自ら課題を見つけ、自ら学びをマネジメントする)。
学び方指導 家庭への啓発 ミライシード活用推進 授業とのリンク

館林市の教育 自ら学ぶ意欲とたくましく生きる力を身につけた未来を担う子どもが育つまち

- 1 特色ある学校づくり
- 2 豊かな心の育成
- 3 確かな学力の向上
- 4 心身の健康、体力向上、食育の推進
- 5 個性を伸ばす教育の推進
- 6 学校保健、安全の充実

方針3 「心身の健康」

安全に留意し、自ら運動に親しみ心身ともに健康な体をつくらうとする態度を育てる。

- 保健・給食指導を工夫します。
食物アレルギー 感染症対策 自己防衛・防犯意識の高揚
- 運動の機会を確保します。
効果的なレボ 外遊び習慣 体育的イベント参加促進
- 体育の授業を工夫します。
コミュニケーションゲーム 達成感 自己理解と技能向上
- 食育を推進します。
栄養教諭と連携 健康相談 望ましい食習慣づくり
- 安全点検をしっかりと行います。
管理者責任 危険箇所把握・即時改善 検証と具体的指導

目指す学校像 命を守る安全・安心な、太陽のような明るく温かく輝く学校

児童にとって
安心して通える学校

- ・頼れる先生がいる
- ・仲よしの友だちがいる
- ・みんながルールを守っている
- ・自分のよさが発揮できる

保護者・地域にとって
安心して預けられる学校

- ・安全管理がしっかりしている
- ・確かな学力を身につけてくれる
- ・ニーズに応えようとしてくれる
- ・積極的に情報を発信している

学校教育目標 (めざす児童像)

「進んで学び 心豊かで たくましい 一こっ子」の育成

- | | | |
|-----------------|--------------------|------------------|
| 気づき考え 伝え合える子 | 自分や友だちの よさが分かる子 | めあてをもって 行動する子 |
|-----------------|--------------------|------------------|

「自分で何とかしようとする力」の育成

- 低学年：自分で考え行動する子
- 中学年：相手の気持ちを考え行動する子
- 高学年：自分で決めたことを友達と試行錯誤できる子
- 特別支援：自分で考え、場に応じて行動する子

生活行動合言葉

1. 「うた」と「そうじ」と「あいさつ」と
2. 人(友だち)の嫌がることをしない、言わない
3. 「ここあ」(こころ、ことば、ありがとう)

職員にとって

安心して働くことができる学校

- ・各組織を生かして業務改善を推進し、効果的、効率的に業務を遂行する
- ・使命感や誇り、児童への愛情や責任感を発揮できる
- ・児童理解力、生徒指導力、学習指導力などの高い専門性を発揮できる
- ・豊かな人間性や社会性、常識と教養、対人関係能力、同僚性を発揮できる

方針5 「教師の姿勢」

学校生活における児童観察に努め、児童自身が自分の成長を実感できるように働きかける。(指導・助言・支援・共感・相談)

- よさやできたことを認め、紹介します。
小さなことでも機を適切に捉えて称賛、他者に紹介
- 児童一人一人の居場所をつくります。
特別活動活性化 自己内対話で自己理解 成功への導き
- 正しい言動で模範を示します。
呼名 状況に応じた言動 言葉の重要性の認識
- 個性を理解し、大切にします。
失敗時の傾聴 背景や思いを共感 理解 感情の推察
- 子どもの成長を記録し、正しく評価します。
ICT活用による可視化 努力の足跡や過程の評価重視

【重要課題】 SOSの出し方教育推進 不登校・いじめ対応

- 1 日常の児童観察と早期介入による未然防止に努める。
定期面談 教育相談の充実 特別教室開放
- 2 チームによる的確な対応を行う。
「子どものSOS」には
組織的なSOSの出し方教育(管理職 生徒指導 担任)
SOSキャッチ 重い受け止め 時系列記録 迅速な支援
「不登校傾向児童」には
一欠席対応プログラムによる初期対応
保護者との共通理解 児童に合ったサポート
教育研究所、SC、SSW、子育て支援課等との連携
「いじめ」には
「一いじめ防止基本方針」に基づく組織的対応
家庭との連携 早期対応、スクールロイヤーの活用